

■令和5年1月5日 定例記者会見内容

- 1 日 時 令和5年1月5日(木) 11:00~11:30
- 2 場 所 市役所本庁舎3階第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、地域創生部長、市長公室長、企画調整課長、交流観光課長
○酒田記者クラブ7社(朝日新聞、読売新聞、山形新聞、荘内日報、河北新報、YBC、NHK)
○コミュニティ新聞社(記者クラブの承認により出席)

■市長発表事項

- ・特に無し

■代表質問

1 新年を迎えた年頭の所感について

記者／昨日、賀詞交歓会や職員訓示でもお話されたと思いますけれども、改めて、最初に、新年を迎えた年頭の所感を改めてお聞かせください。

市長／まずは皆さん本当に明けましておめでとうございます。

昨日も、お話をさせていただきましたけれども、まずもって鶴岡の土砂災害ですが、あれには本当に驚きました。他人事ではなくて、ああいうところでも土砂崩れが起きるということは、酒田にもあのような地域というのは幾つもあるわけですので、やはり油断せずに、もしあのような場所があれば、事前に調べておく必要がありますし、事故が起きた場合には、速やかに対応できる体制というものをしっかり構築しておかなければいけないなということで、改めて肝に命じたことであります。

本当にショックな災害で、お二人の方が亡くなられましたけれども、心からご冥福をお祈りしたいと思います。

令和5年を迎えました。私は、新しいに化けるという漢字「新化」という言葉を、年頭の挨拶でも賀詞交歓会でも言わせていただきましたけれども、要するに、頭を切り換えて、過去どうだったかとか、或いはこれまでこうやってきたのだとか、そう言った概念を、ある意味、脱ぎ捨てる場面も必要かなと思っております。

新しい感覚で、新しい戦略、新しい機能、新しい価値観みたいなものを追い求めて、いろいろな施策をやっていく必要があるのではないかなということで、改めて行政を司る人間として、その決意を述べさせていただいたところでございました。

特に、個々の具体的な事業については、昨日は申し上げませんでしたけれども、令和5年、皆さんもご存知の通り、私も新たに策定をして先月の議会で議決をいただきました酒田市の総合計画の後期計画、これが4月からスタートするというので、今、それに向けた来年度の予算編成を、これから明日以降、最終段階の詰めを行っていく状況にございます。

そういった意味では、まさに総合計画の後期計画の1年目の設計図というか、航路図

というか、そういったものを今、これから作り上げていきたいなと思っておりませんが、その中でもとりわけ、いわゆる山居倉庫の取得も含めてですけれども、山居倉庫周辺の整備計画、それは旧消防本署跡地の所と、旧商業高校の跡地の所、これがいわゆるビッグプロジェクトとして、整備が目に見えてくるという段階かなと思っています。

ハード面ではそれを中心に、酒田のまちづくりは進めていきたいなと思うのですけれども、私どもとしては、サンロクを中心として地元企業支援、これは農林水産業も含めてですけれども、その地元企業支援や企業の誘致を、もっともっと現実のものとして実現させていきたいなという強い思いを持ちました。

もう1つは、洋上風力発電の絡みで、酒田港の基地港湾指定も、是非私どもは期待をしたいですし、それに関連してですが、地域の脱炭素化の取組みを進めて、再生可能エネルギー循環都市というものを酒田市の看板として少し前進させていきたいなと、そんな思いを持っております。

それから、直接酒田市として前面に出る話ではないのですけれども、やはり東北公益文科大学の公立化です。これから、おそらく山形県の方で様々な協議をしてくると思います。合わせて機能強化の話もございます。

私どもは、まず公立化を急いでいただいて、その次に機能強化、これも是非必要ですので、そのことも一緒に段階的に、計画的に進めていきたいし、その機能強化をするにあたっては、是非この地域の産業振興に寄与するもの、そういった形で議論を進められればなと、そんな思いを持っております。

この東北公益文科大学の公立化と機能強化の話は、令和5年にあたって、スピードアップをしていかなければいけない中身だと思っています。

あとはもう1つ、あえて言えば地域コミュニティの組織の力、それを強めるために、いろいろ我々行政としての働きかけを、地域コミュニティの皆さんと進めていければなと思っています。

今年度の事業として、地域コミュニティまちづくり協働指針を策定して、これを地域コミュニティの皆さんにお示しをして、それに基づいて地域づくりを行政と地元の地域と一体となって進めていこうとしているわけです。

併せて、スクール・コミュニティという中学校区単位の地域づくり、こういったものも方針とし、これは総合計画後期計画の中でも謳っていますが、その辺も地元の地域の皆さんにはお示しをしていきたいと思います。具体的にそういった中学校区単位の地域づくりというのはこういうものだということについて、モデル的な地域を1つ想定しつつ、取り組んでいけたらなと思っています。

令和5年度は、大体これらのことを柱に進めていきたいなと思っていますけれども、どうしてもハード整備が前面に出ていくのですが、令和5年度は先ほど言った山居倉庫周辺のエリアの整備が、具体的な目に見える形で進むだろうなと思っていますので、それはそれとして、その他で言えば、今言った項目に少し力を入れていきたいなと、このように思っています。

そのためということでもないのですが、先ほどサンロクを中心に産業振興の話が一番

に出させていただきますけれども、そういう意味では、今回、新副市長をお願いした安川副市長からは、これまでの成果も含めて、是非、力を発揮してもらって、産業振興の面での具体的な成果をこの地域に根付かせていただきたいなど、このように思っております。

新年度にあたっては、そんな抱負を持たせていただいております。

2 新副市長への期待について

記者／副市長へは特に産業振興面での活躍を期待されるということか。

市長／昨日も言いましたけれど、コロナ禍で大分ダメージを受けましたけれど、観光業も含めてなのですが、産業の振興、これは農業も漁業もそうなのですが、やはり産業の振興がベースとなります。

そして、行政としては、固定資産税も含めた税収増に繋がれば、それを福祉の施策や、教育振興の施策に財源を投入できますので、そういった面で、産業振興でしっかりとこの地域を回せるだけの土台をまず作っていきたいという思いがあります。

そのような面では、これまでも、それ中心でやってきたのですが、改めてコロナ禍の収束を見据えながら、産業振興で頑張りたいなと思っています。

そういう意味では、酒田港の基地港湾エネルギーの関係や、公益大機能強化で産業振興に結びつくものは、全部それにくっついてきているというふうに理解をしていただければいいかなと思います。

3 3月JRダイヤ改正による東京－酒田間の所要時間短縮について

記者／3月のダイヤ改正で、酒田－東京間が14分短くなるということなのですが、それを見据えた市の観光振興策は何かありますか。

市長／なかなか厳しい質問です。上りが14分短縮になるということでダイヤの発表があったということで伺っておりますけれども、基本的に下りでは4分短縮になるということのようでございます。

このこと自体は、特別この地域に取り立てて大きな影響というものは無いのではないかなと思っています。早まることは素晴らしいこと、いいことなのですが、このことによって、何か観光の面で弾みになるだとか、特別なキャンペーンを打つだとか、そこまでは現時点では考えてはいないところでございます。

ただ、庄内全体として、例えば「庄内観光コンベンション協会」だとか、或いは「日本海きらきら羽越観光圏推進協議会」という組織もありますので、そういった組織の中で、この短縮した時間をもっともっとアピールをしながら、この地域に観光誘客を図るための仕掛け、どういうものがあるか、少し皆さんと協議、勉強していきなりたいなという段階です。

これが30分以上短縮になるのなら、少し話がまた違ってくるのかなと思いますけれども、特に上りということなので、こちらの人が東京に行くとか、或いはこちらに来た方が東京に帰るとかという場合については、3時間44分ということからすると、もう

少しすると3時間半になってくるので、そういった環境に向けて弾みにはなるかなと思います。

新幹線や羽越線の高速化、速度アップも含めて、何とか3時間半以内で東京と行き来できるようになれば、それは観光だけでなく、ビジネス面でも大きな効果がこの地域には生まれるのではないかなと、そういう期待感を持って、今回のこの14分短縮について受けとめさせていただきました。

記者／また新しい何か観光振興策ありましたら、その際の情報提供をよろしく願います。

■フリー質問

1 令和4年12月31日発生鶴岡市西目地内土砂災害について

記者／鶴岡の土砂崩れの関係で、県、消防の方の広域の応援隊の方で、酒田の方も応援に行っているとは思いますが。他に何か今のところ具体的な支援とか、もしくは、もう既に行っているようなことというのは何かありますか。

市長／酒田の消防からは、応援要請期間中、10名ほどの人を応援派遣させていただいております。

本当に隣の市のことでもありますし、我々としては、庄内の同じ生活圏だという思いからすると、先ほども言いましたけれども、他人事ではなくて自分事として、応援体制は組ませていただきますし、今後、あのような地盤の地域の検証や、或いは危機管理体制の中で、鶴岡市とも情報交換をさせていただきながら、酒田市としても危機管理体制を強めていきたいなど、そんな思いを持たせていただいているところでございます。

具体的に、今後の支援、そこについては今のところまだ検討している段階ではございませんが、これから鶴岡の消防や、危機管理部局、それから県も含めて連携をして、庄内全体としてそういう場面に遭遇した場合の対応の仕方等について、体制の整備を図る部分があれば、検討をしていければなど、そんな感想を持った次第でありました。

記者／具体的に今のところは、支援要請が来てはいないということでしょうか。

市長／はい。

2 9月の市長選挙について

記者／今年は9月に酒田市長選があるわけですがけれども、10月記者会見でも何か質問があったみたいですがけれども、年が明けて、改めて市長選に向けた市長のお考えとか、いつぐらいを目途にはっきりと表明するのか等、その辺りのお考えをまずお聞きしたい。

市長／結論的に言うと、3月議会明けには、態度を表明しないとまずいだらうなという思いで、現時点ではおります。

まずは総合計画が出来ました。その上で、これからの予算編成は、しっかりこなさなければならぬ大きな仕事であり、3月議会に令和5年度予算が諮られる。その議論だとか、その辺の流れを踏まえながら、私の後援会組織の皆さんとも相談をする必要もあ

りますし、そういったハードルをクリアした上で、3月議会後位に、しっかりと表明、考え方を示したいなと思っております。

従って、現状の時点では新聞にも載ってございましたけれども、熟慮中ということに留めさせていただければなと思います。

3 新しい工業団地の造成について

記者／令和5年は産業振興に力を入れていくというお話がありました。

産業振興の中の大きな一つと捉えることができるのが、企業誘致というところがあると思います。

酒田の場合、今、工業団地が京田西ですが、こちらは大体完売ということで、次の工業団地を造成するとか、そういったところについて現段階でどういうふう考えていらっしゃいますか。

市長／工業団地の造成となりますと、一定程度、具体的なエリアを一つ定めて土盛りをしたりということで工事費が掛かる訳です。

今の総合計画を見てもらっても分かるのですが、財政的には非常に厳しい状況にあります。従って、工業団地の造成をするという、財政投入をして市が造成をするということについて、現時点では持っていません。

ただし、工業用地は必要だと思っていて、ご存知の通り、港の埋め立てのところは、約38か39ヘクタールあるのですが、港湾計画上、あそこの色塗りは工業用地になっています。

工業用地ということからすれば、市が工業団地を持つということもありますし、県が持つということもありますし、それから土盛り等の整備はされていなくても、工業用地域というのがあって、そこに企業の皆さんが造成をして、そこに立地をするということは可能な訳です。

それから、先ほどの県港湾の工業用地のところ、これは現在、基地港湾絡みで港湾計画の変更に向けた手続きを県が行っております。その中で、工業用地としての位置付けがどうなるかというのは、少し私どもも見えていない状況です。

もっと言うと、カーボンニュートラルポートという話が、県を中心に今、進められておりまして、そこが本当に、どのくらい工業用地としてなるのか、或いは、いわゆる基地港湾ということになれば、風車を組み立てるための岸壁なり整備用地として整備をされるということですか、或いは物流基地になるのか、いろいろな整備の手法が多分出てくるのだろうなと思います。従って、丸々工業用地化されるということは、今我々、それは多分ないのではないかなという思いがあります。

そうすると、どこかに求めなくてはいけなとか、或いは、やはり市が一定程度、造成経費を予算化して、京田西工業団地のような工業団地をどこかに作るということも考えなくてはいけなかもしれないのですが、現時点では、県港湾のところも、こういう形で決まっていないので、今のところ酒田市としては、工業団地を造成するという方針は持っていないということです。

ただし、例えば広野地域に、準工地域になるのですけれども、企業が進出して工場を建てていますし、工業団地を我々が整備しなくても立地する企業というのはある訳です。

従って、工業団地に財政投入して造成をして、売れ残るというリスクもありますから、今の現時点では、市が市の工業団地を直接造成するという考えは持ってはいませんが、企業の立地・誘致、そういったものについてはしっかり力を入れていきたいし、準工エリア、そういったところも含めてですが、もし、企業が立地したいということになれば、それは造成費用だとか様々な既存の支援措置を講じながら、企業の立地には努めていきたいなと思っています。

市の土地である場合もあれば、民間の土地での場合でもあれば、県の所有地という場合もありますので、そういったところはオーダーメイド方式というのでしょうか、その立地する企業と、その意向なども確認しながら、企業立地、企業誘致のための支援施策を改めて構築していきたいと、そういう思いでいるところです。

4 ANA SHONAIブルーアンバサダーについて

記者／今日の山形新聞に、ブルーアンバサダーの件が掲載されていまして、少しその絡みでお伺いします。

5人いる女性のうち、3人が3月以降、任期満了という内容でしたけれども、酒田市や庄内空港利用振興協議会として、例えば、残る2人だけではなくて、もう3人、新しい顔ぶれをお願いするとか、そういうことが出来るのか、あり得ることでしょうか。

あくまでANAの働き方改革でコロナを契機に始まった訳ですが、酒田市としても是非ということだったと思いますけれども、実際、酒田市への移住に関しては家賃補助という形で補助もあるみたいですし、そういった制度を活用して継続をお願いするとか、そのような働きかけや、動きというのはあるのですか。

市長／昨年継続をお願いしました。その結果として、2人がこちらに残るという結果になったと、私どもは理解しています。

やはり企業側、これから飛行機、航空需要も出てきますし、また海外線もANAさんでも力を入れていくということもございます。どうしても、向こうの人員手配上の都合というのがありますので、我々としては何とか5人全部と思いましたが、そこは向こうで自分たちの企業戦略上、2人は残すということになりました。

ただ、3人は戻りますけれども、我々の思いとすると、ブルーアンバサダーとして庄内の発信には他の便に乗ろうとも、いろいろな活動で力を発揮してくれるとおっしゃって来ていましたので、そこに期待をしつつ、継続される2名については、またこれまで通り、この地域の発信のために、いろいろな場面で活躍してもらえればなと思ったところです。

本来は、3月で終わりだったのです。でも、そこを何とかということで、我々の思いを汲んでくださったANAさんには本当に心から感謝申し上げたいと思います。

ブルーアンバサダーなので、3人の戻る方に対しても、例えばバッジだとか、或いは髪の毛のピン留めとか、そういうものに「SHONAIブルーアンバサダー」と表記したも

のを着けていただけないかとお願ひもしたのです。

けれども、やはりそれは厳しいのだそうです。キャビンアテンダントというのは、全部、髪からコスチューム、全て決められていて、変なものはくっつけては駄目だということになっていて、なかなかそれは難しいのですという話を、この間、懇談した時にお聞きした。

やはり、思ったのは、同期が700~800人もいると言っていましたけれど、私どもから見ると、キャビンアテンダントはチームで仕事をし、皆顔見知りで行っているのかなと思ったら、違うのだそうです。そのとき初めて会う人たちと仕事をする方が、まずほとんどだということで、そういった中であのように仕事をして、組織立ってきちっと仕事ができるという、そのANAの体制はすごいなと思っています。

我々、一つの組織を預かる人間とすると、ああいった組織管理をしている企業というのを、人事管理も含めてしっかり参考にさせていただきたいなという思いがあります。

■その他

1 【配付資料】東北公益文科大学と山形県立酒田西高等学校と酒田市との連携に関する協定について

記者／今日5日になっていますけれど、締結式のような何かセレモニーがあるのでしょうか。

市長／ないです。

酒田市と高等学校とは、これで全部協定を結んだということになります。

光陵高校、東高校、南高校とも公益大を含めた形で三者協定を結びましたし、酒田にある高等学校とは全て、酒田市としては協定を結びました。

本来、高等学校教育は、県教委の範疇なのですけれども、そうではない。市として、高等学校の教育にもぜひ深く関わっていきたいという思いから、全ての高校と協定を結ぶことができましたので、それぞれ各校、協定をベースにして、活動する中身は違いがあるわけですが、しっかりと市内の高等学校教育とも酒田市の行政が結びついて、地域づくりに彼らの力もお借りしたいなと、そういう思いでいるところです。